

# 身体的な発達と自己とのかかわり 4・5・6月

わらす組の生活(ルールやルーティーン)に慣れ、

排泄や身支度など自分でできることを増やしていく

～いろいろなルールに気付き、手伝ってもらいながら少しずつできるように～



4-6月の間は、わらす組のルールに気づいて行動していく様子が多く見られていました。戸外活動への身支度、ごはんのセミバイキングでの量の調節、遊ぶ前のゾーン表の確認など、少しずつ気づいて、行動もできるようになってきました。忘れてしまうこともまだまだありますが、子どもたち同士で気づいたりしていました。時に先生やらんすいの子どもたちに声をかけてもらったり、手伝ってもらったり、そのかかわりの中で、楽しく進めていきました。

～味見から自分の食べられそうな量の見通しを少しずつ感じれるように～



特にセミバイキングの量の調節は本当に難しいです。私たちは、食べる食べれないというところではなく、〈食べられる量を選択できること〉〈味や食感との出会い〉を大切にしています。なので、バイキングの際【味見】を行っています。その味見から、量を調節、時に挑戦してみたり、子どもの中で選択しています。

# 社会的な発達と他人とのかかわり 4・5・6月

らんらん組とすいすい組のお姉さんお兄さんの姿  
を見たりかかわりを持ったりしながら、あこがれ  
を持って生活していく

～お兄さん・お姉さんの力を借りながら制作や戸外活動を楽しみました～



公園までの行き帰りをお  
姉さんと  
一緒に！

折り紙で食べ物を作っている、らんすいの友だちの姿をみて、だんだん制作で作ったものでごっこ遊びに発展し、お店屋さん、時にお客さんとして訪れたりして遊んでいました。アイス屋さん、寿司屋さんなど、子どもたちそれぞれの好きな食べ物で繋がり、楽しむ姿も多くありました。

戸外活動では、行き帰りでお兄さん、お姉さんと一緒に！ひっぱってくれていました！

らんすいの虫取りチームに、あまねくん、あきとくん、はるとくんは、必ずついていっていました。みんなで、虫を目がけて走る姿がかわいくて印象的でした。

～年上の子の寄り添いや保育者の仲介で心地よい生活を送れるように～

まつる新幹線に、お弁当を  
持って  
乗車していました



初めは、らんすいの遊びと上手くかみ合わないことで遊びに入り込めない姿もありました。ですが、らんすいの子どもたちが寄り添ってくれたり、わいわいの子どもたちも保育者が間に入ったりしながら、少しずつ気持ちを言葉で表現していく中で遊びの世界に参加し、みんなで心地よい生活を送れるようになってきました。

戸外、室内遊びの中で、「やりたい！」から

様々な体験、経験をしていく

～新しい素材に興味津々！どうしたら出来るのかを教えてくださいながら制作を楽しみました～



真剣！！

制作に興味があるわいわい組の子どもたち。わらすでは、おりがみ、はさみ、のりなどいろいろな素材を自由に使えるので、初めは目新しいものばかりで「とにかく触ってみたい！切ってみたい！」と素材に触れることを楽しんでいました。素材を形にし、折り紙で食べ物を作っているらんすいの友だちの姿をみて、憧れを持ち「おしえて」と声をかけ一緒に作ることも。その関わりからだんだんと、素材を形にしていました。

～わいわいだけの落ち着いた環境をつくり、思い切り自己発揮ができる体験を～

かぶとむし  
だいすき！！



単独クラスから大きな集団のクラスになり、二か月が経ち、わくわくの期待感から、少しずつ集団生活の中での不安や疲れも出てきました。そこで、わいわいタイムを作り、ゆったりと少人数で友だちと過ごす時間を作りました。わいわいだけの落ち着いた環境の中で、思い切り大きな紙に絵具で豪快に塗ったり、体に塗ったり互いに塗りあったり！この時間を何度も作っていくことで、わいわいの友だち間での関わりも深まり、わらすでの環境も心地よく過ごしていました。